

小金井公園 林の中からはじまるアート展2026 出展作家紹介

※写真の作品は過去作品です。『林の中からはじまるアート展』出展作品ではございません。

青野 正 Aono Tadashi

1980年 東京造形大学彫刻科卒業
1993年 フジサンケイ・ビエンナーレ現代国際彫刻展 特別賞
1994年 アートリゾート朝来2001野外彫刻展in多々良木 '94 大賞
1997年 第2回荒川リバーアートコンテスト 特賞
1998年 ヤマの男たちのモニュメント 大賞
1999年 第10回 川鉄デザインコンペ グランプリモニュメント賞
2010年 日本芸術センター第2回彫刻コンクール 金賞
2015年 個展 Gallery JAEDONG (ソウル)
2018年 個展 箱根の森美術館 (箱根町)
2025年 縄文コンテンポラリー展('15/'19/'22) (船橋市)



Steel's Ash
2019年、縄文コンテンポラリー展 inふなばし (飛ノ台史跡公園博物館)

浅見 和司 Asami Kazushi

キモチとカタチの間、コトバとカタチの間、平面と立体の間、
具象と抽象の間、アートとデザインの間、などなど
そんないろいろな間のことに思いを馳せて
「人」と「花」を主なモチーフとして「キモチノカタチ」を表現しています。
昨日よりほんのチョット幸せに、ほんのチョット笑顔になれる
そんな作品づくりをしてゆきたいと思っています。

[Facebook]
<https://www.facebook.com/kazushi.asami>
[Instagram]
<https://www.instagram.com/kazushiasami.art/>



3 become 1 / Trio The Flowers
2025年、24th アートinはむら展

阿部 佳明 Abe Yoshiaki

私は目に見ることの出来ない空気をテーマに制作をしています。
『水と空気と安全はタダ！』私はそれすらも意識せずに子供の頃を過
ごしていました。さて、現代はどんな様子でしょうか？

1982 東京造形大学卒業
2004 文化庁新進芸術家海外留学制度 ドイツ デュッセルドルフ
[グループ展]
1994'97'99'00 現代日本彫刻展
1996 '98'00 KAJIMA 彫刻コンクール
1999 岡本太郎記念現代芸術大賞展
2002 20世紀。美術は虚像を認知した 平塚美術館
2006 横須賀美術館 準備企画「境界の風景」展 他
[個展]
1992'94'95'96'98'00 ギャラリーなつか
1996 INAXギャラリー2
2002'06'10'15 ギャラリーひらわた 他

[Facebook]
<https://www.facebook.com/yoshiaki.abe.507>



不可触領域
1998年、GALLERY NATSUKA

小金井公園 林の中からはじまるアート展2026 出展作家紹介

※写真の作品は過去作品です。『林の中からはじまるアート展』出展作品ではございません。

石川 麻 Ishikawa Asa

うつくしい地球での、わたしたちの日々の生活。
そのなかで目にする、昇ったり沈んだりする太陽。
山の木々や空の雲、風たち。
目にうつる事象、また目には見えないが、たしかに感じられるもの。
動物や人のかたちをとおして、ぬくもりが感じられる木彫りの作品へ、
それらを投影しています。

4



黒白(こくびやく)
2025年、想像された狼たち展 武蔵御嶽神社神楽殿/東京都青梅市

伊藤ファミリー(タダオ&のりこ) Ito family(Tadao & Noriko)

今回の作品は、オブジェを中心にコミュニケーションのように周辺をハウスで囲むように構成してその上に土星を置く。セラミック(陶)と合板の土星がどうかみ合うのか…そして 小金井公園の木木の中に「コミュニケーション+土星」が見れるのを楽しみにしている。

★伊藤ファミリーは、セラミック(陶)で立体作品を制作している伊藤タダオと、土星をテーマに紙の作品を制作している伊藤のりこが2018年に結成したユニット

5



6から5へ
2024年、現在進行形 野外展2024

内海 仁 Utsumi Hitoshi

ふとした瞬間、私は自己の内部に、思考とは異なる判断の層が存在することに気づく。そこでは理由や意味は問われず、身体が静かに選択を完了させてしまう。意志だと思っていたものは、より古く、名付けようのない力の痕跡にすぎないのかもしれない。無数の選択が繰り返され、主体は更新され続ける。その過程そのものが、生の継続として私たちをここに留めてきた。

[Web]
utsumihitoshi.wordpress.com

6



waterfall
2025年、Crosscurrent(LA)

小金井公園 林の中からはじまるアート展2026 出展作家紹介

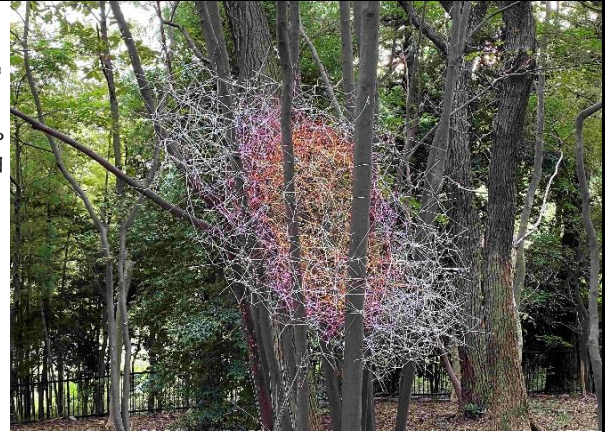
※写真の作品は過去作品です。『林の中からはじまるアート展』出展作品ではございません。

7 尾形 勝義 Ogata Katsuyoshi

鉄やアルミ線を手でねじる作業だけで構築される「線材意識体」は、風や光、身体の動きと呼応するインスタレーションであり、2025年は隅田公園リバーサイドギャラリー、長崎県美術館、神保町まちなかアート、中之条ビエンナーレ、大島「星の発着所」などで発表し、映像作家や舞踏家とのコラボレーションも実現している。物質の緊張と空間の余白を往還する作品は、現代における存在の気配と非言語的な感覚領域を探究している。

[Web]

<https://artspace-whitehead.com>



線材意識体～星雲～
2024年、現在進行形 野外展2024

8 かとう かずみ Kato Kazumi

「耳」というテーマを取り扱っている。耳は人間・動物に大抵ついていて形状は多種多様である。耳と言う文字だけを捉えても 耳は音を聞く器官ー音ー脳ー言葉ーコミュニケーションー情報ー音楽といくらでも広がっていく。その耳をほんの少ししか形にできないが それを表す事でかとうの世界も広がっていく。創る行為から現代の社会やそこに居る自身を模索し考えて行けるのではないかと思う。



聞く装置
2024年、第11回花とみどり・いのちと心展 昭和記念公園花みどり文化センター

9 栗原 優子 Kurihara Yuko

2008年女子美術大学大学院修士課程立体芸術領域 修了
東京都在住
主に石や糸を使って立体作品を制作しています。
個展(TOKI Art Space、galerie H 他多数)
グループ展・野外展(雨引の里と彫刻、中之条ビエンナーレ 他多数)
作品設置(東京工業大学すずかけ台キャンパス、小豆島戸形小学校、
県立相模原公園、須賀川市緑が丘公園)

[Instagram]

[_yukokurihara_](#)

(※アルファベット前後アンダーバー各2つ)



ひらめ きらめき
2021年、Contemporary Art from Sweden part3(三溪園/神奈川)

小金井公園 林の中からはじまるアート展2026 出展作家紹介

※写真の作品は過去作品です。『林の中からはじまるアート展』出展作品ではございません。

10 島村 宗充 Shimamura Munemitsu

日々の暮らしの中で生じた妄想や幻想を元に作品制作をしている。
近頃は資本主義の終末を考える事が多くなった。
元々お金に関して苦手意識があり、必要であるにも関わらず何処か遠
巻きで居たのだが、ここに来て漸く経済という残された宿題について、
歪んだ見方ではあるがオンチな頭がゆっくりと動き始めた。
今迄資本主義とは貨幣経済の事だと思っていたが、どうも違う様だ。
まずは石化したお金の様な物体を作ってみることにした。



「残像が消え去るまでに—historical な3つの位相によるインスタレーション、あるいはテキストの試作」(部分)
2024年、ピクセルの隙間 -コワレつつあるセカイの小さな国から- (天野画廊、大阪)

11 清水 玄太 Shimizu Genta

宮城県白石市小原、ここに素材となる石があります。かつて石垣等に
用いる為に山肌から切り剥がされた石の残材切れ端が、放置され風雪
に晒され、古色を帯びつつそこに存在しています。一つひとつの欠片に
はそれぞれに形があり色合いがありおよそ永遠と感じられる時間の重
みを表しているかのようです。そこに作家の感性を加えることで、作品
としての新しい時間が重なるように感じています。石に耳を傾ける在る
べき姿を模索しています。



お祈りの時間
2019年、福岡アジア美術館 全労済ホール／スペース・ゼロ30周年記念 未来抽象
芸術展&Zero-K

12 鈴木 齊 Suzuki Hitoshi

いつの頃からか幾つもの浜辺を彷徨いながら、白くまろやかな流木と
の出会いに心躍らせている。森から海へと辿る悠久の旅の過程にある
流木と、刻の流れの中で錆びていく鉄板という、ともに永い時間を秘め
た素材を使ってインスタレーションを主体に制作している。
最近は常に「自己の祈りの場」を創出しているような・・・。

[Facebook]
<https://www.facebook.com/higechan.s>
[Instagram]
<https://www.instagram.com/higechan.s/>



彷徨えるものたちよ 2025
2025年、ギャラリー檜 (東京・京橋)・個展



@HIGECAN.S

小金井公園 林の中からはじまるアート展2026 出展作家紹介

※写真の作品は過去作品です。『林の中からはじまるアート展』出展作品ではございません。

13 関 直美 Seki Naomi

多摩美術大学大学院彫刻過程修了
1994年 第4回現代木彫フェスティバル大賞
1998年 文化庁海外派遣 / アイルランド、リトリム・スカルプチャーセンター
2000年 中国・上海で公開制作
2002年 ロッフ・ブーラ国際彫刻シンポジウム / アイルランド
2006年 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ
2007年 アイルランド現代美術館レジデンスプログラム
他個展・グループ展や身体とのコラボレーション多数

[Web]
Naomi-seki.com



Paper Sculpture
2023年、千年画廊伊之助 / 東京

14 平 昇 Taira Noboru

波動による気づきと、視覚、身体性などを表現しようと思います。
1957年鹿児島生まれ。1981年Bゼミスクール終了。1982年よりコバヤシ画廊(東京)。85年真木画廊(東京)等で個展多数。2021年よりコバヤシ画廊にて毎年個展開催。1980年「Bゼミ展」横浜市民ギャラリー。84年「臨界芸術・'83年の位相」村松画廊(東京)。2010年より野外アート展に毎年参加。24年「NAU21世紀美術連立展」国立新美術館(東京)にて未来賞受賞。



右脳は曲線が好き
2024年、平昇 展

15 田中 俊之 Tanaka Toshiyuki

地面から垂直に石を積むことでそれは道標やモニュメントとして機能します。
一方、石を連ねる事でそれは数珠やロザリオのようなアミュレットの意味を持ちます。いずれも記憶や願いを反映させるものとして遍在します。
透明な素材を樹間に配置することでそれは周囲の情景を映し出し、時間の経過や天候と共に変化します。感情や記憶が移ろい易いように。



天珠 / The floating rosary
2023年、緑と道の美術展in黒川2023

小金井公園 林の中からはじまるアート展2026 出展作家紹介

※写真の作品は過去作品です。『林の中からはじまるアート展』出展作品ではございません。

16 永沼 直孝 Naganuma Naotaka

美大彫刻科を修了後、渡独。81～06西ベルリンやデュッセルドルフに在住。85デュッセルドルフ国立芸術アカデミー学生奨励賞。90-91同校美術鑄造特任教師。第5回フェルバッハ国際小型彫刻展(92)、ヒルデン市小型彫刻ビエンナーレ1等賞(94)、対話展(ケルン日本文化会館・00)。公共彫刻:カールスト市95～、ウィリッヒ市95～、ハンブルグ市04～26。帰国後、2019年～東京都にて作品発表再開。
テーマ:時間、成長、破壊、循環。

[Web]

1) <https://ichonokigallery.com/collaboration22ex-1001/>

(ギャラリーいちようの木 ウェブサイト内)

2) <https://sh-kunst.de/naotaka-naganuma-windstille/>
(シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州の公共アート紹介ウェブサイト内)



「Windstille(ヴィントシュティレ) - なぎ」(ブロンズ製)
2003年、「彫刻風景展」ハンブルグ・ベルゲドルフ市庁公園:2004～2026年(長期展示終了予定)

17 丸山 常生 Maruyama Tokio

美術家・パフォーマンスアーティスト。1979年より、インスタレーション、アクション、映像など多様な表現を発表している。制作は、場所を取り巻く環境に目を向け、空間・身体・時間の関係を探ることを軸としている。本作では小金井公園に机の形をしたオブジェを設置し、訪れた人がふと立ち止まり、その場に積み重なってきた時間や出来事の記憶に気づくような体験を構想している。



Imaginary Globe- 地勢と軌形
2023年、「東極の磁場」in WAKASA 2023、熊川宿若狭美術館

18 丸山 芳子 Maruyama Yoshiko

伸び上がる樹木の枝は、空と溶け合おうとする腕のよう。林にて、生命進化の奇跡を想像する。3億7500万年前の原始生物ティクターリクが、海から陸へ上がり、さらに分岐・進化して、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類となる。樹の中や地中では、新芽や昆虫や菌類の営みがある。この地球で、ヒトはどのような存在か。

プロフィール／

人間があらゆる他者と調和し共生することを希求し、インスタレーションや絵画で表現する。「精神の〈北〉へ」を東京都美術館やフィンランドのロヴァニエミ美術館にて、「ギャップ・ダイナミクス」を板橋区立美術館で企画開催。

[Web]

丸山芳子 maruyamayoshiko.com

精神の〈北〉へ spirit-of-north.net



きこえるかい? #2110-1
Kyra Cleggの映像とパナーとのコラボレーション
2021年、精神の〈北〉へ vol.12 / 会場:二十間蔵(福島県喜多方市)

小金井公園 林の中からはじまるアート展2026 出展作家紹介

※写真の作品は過去作品です。『林の中からはじまるアート展』出展作品ではございません。

19	<p>望月 久也 Mochizuki Hisaya</p> <p>1958年東京都生まれ。'83年東京学芸大学大学院(美術)修了、'93年文化庁芸術インターンシップ。'94年かねこあーとギャラリーで個展、以降2025年ステップスギャラリーの個展まで12回。'84年相模原野外彫刻展より、'25年雨引の里と彫刻まで野外展多数。'93年宇都現代日本彫刻展、'94年神戸須磨離宮公園現代彫刻展より、'22年鹿島彫刻コンクールまでコンクール入選9回(受賞4回)。現在石岡市(旧八郷町)在住。日本美術家連盟会員(立体)、日本女子体育大学名誉教授(造形表現)。</p>	 <p>空へ '22 2022年、第17回KAJIMA彫刻コンクール</p>
20	<p>森 哲弥 Mori Tetsuya</p> <p>1969年大分県生まれ、1995年に多摩美術大学彫刻科を卒業、「近代彫刻」の造形思考をベースにしつつ、彫刻を人体の外形だけでなく、内側から溢れ出すエネルギー「実体の塊(マッス)」として捉え、日本文化が古来より大切にしてきた「自然観」や「素材との身体的対話」を通じ、内部から外側へ向かう生命力や精神性を表現する。また、彫刻制作と並行して素描や版画にも注力しており、三次元の立体作品で追求している「かたち」の根源を平面上でも探求している。</p> <p>[Instagram] https://www.instagram.com/mori_t_tetsuya/</p>	 <p>Chapel 2025年、ギャラリー誠文堂</p>
21	<p>山口 光 Yamaguchi Hikaru</p> <p>私は、私たちの「見る」という行為の曖昧さや揺らぎに関心をもって制作を行っている。映像やインスタレーションなどを用いて、知覚と認識のあいだに生じる微細なズレや、他者との関係の中で立ち上がる感覚の変化を可視化することを試みている。そうした揺らぎを手がかりに、私たちの知覚や関係のあり方を、自らの制作を通して問い直し続けている。</p>	 <p>YES!YES!YES!NO!NO!NO! 2025年、緑と道の美術展 in 黒川 2025</p>